

東丹沢方面：堂平

「令和7年度自然再生事業研修（第2回）」

令和7年11月6日（木）

●自然環境保全センターの所内研修にパークレンジャーも参加しました。

今回の場所は堂平です。ここは丹沢の中でも自然再生事業が先行的に行われてきた所です。

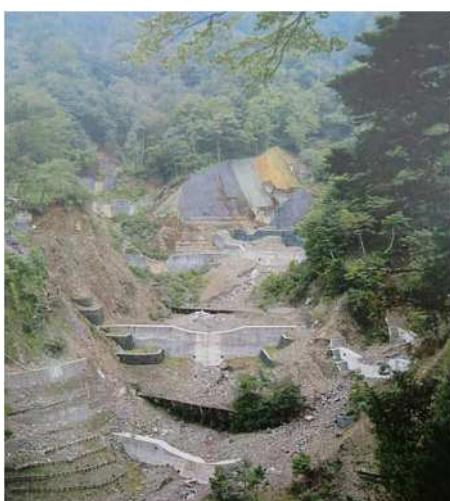
近年、堂平周辺は林床植生が回復傾向にあり、これまでの取組みの経過と現時点の自然再生の成果を見学しました。



研修の様子

●堂平沢上部は関東大震災の被害を受け、大きく崩壊していました。長年にわたって治山事業を行った結果、シカの管理捕獲との相乗効果もあり植生の回復が確認できました。

現在見られる種のほとんどはケヤマハンノキで、沢沿いの荒廃地でも生育ができる成長の早い木です。今後は徐々に多様な植生に変わっていくことが期待されています。



2002年の様子



現在の様子

●1990 年代の堂平はスズタケの退行、多年草の個体数減少等が見られ、植生が最も衰退した時期でした。はっきりとした原因がわからず調査した結果、人工林の手入れ不足やシカの個体数の増加が主な原因であることが解りました。

シカの採食から植生を保護するために人工林内に柵を設置したところ柵内で植生の回復が確認できました。最近では柵外でもケヤキやブナの実生が見られるようになりました。



植生保護柵内の回復の様子



ケヤキの実生



ブナの実生

●林内で見上げた時、空の開けた割合を開空度と呼びます。50 パーセントを超えるとブナ等の高木の密度は顕著に低下します。一度広がると再生には長い年月が必要になります。

